

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっかい生きてます!



恒例の潮騒花見会

今年は那珂市にある静峰ふるさと公園の八重ザクラを堪能

記事は次号で...

2014

4

私たちの生きる姿勢を 地元の唐沢秀さんから学ぶ



前回、自然と向き合う潮騒農業が依存症の回復メカニズムと深くかかわり、懐の広い自然治癒力こそ回復の原点であることを記しました。実はこの問題で、私達の足元に学ぶに足る先達があります。本号 4、5 ページに登場した鹿嶋パラダイス代表の唐沢秀さんです。「灯台下暗し」ではありませんが、すぐ近所に珠玉の人がいたことに驚いています。ノン・アディクトの立場ながら、自然派農業を実践するの唐沢さんの生き方そのものが、私たちに大きなヒントを与えてくれます。

唐沢さんの魅力は常識をくつがえす発想と行動力です。日本社会にはびこる前例主義に囚われず、失敗を恐れない先取の気質と姿勢には脱帽です。まだ30代と若いですが、世界に目を向けるスケールの大きな人間性がうかがえます。私にはダルクを創設した近藤恒夫さんにイメージが重なります。子供がそのまま大人になった天真爛漫なところがあり、自然派にありがちな頭でっかちの農業者とは違って理屈をこねず、程よい「いい加減さ」を認め合いながら、自分が信じる道を信じて突き進む姿にとっても共感を抱きます。

唐沢さんは以前に勤めた農業生産法人で2千枚に及ぶハクサイ畑などを管理していましたが、いくら科学肥料や堆肥、農薬を使っても自然が織り成す微生物の世界には理論解析が及ばず、その偉大な未知のパワーにはかなわないことを悟りました。依存症の回復でいう「無力」を認め、自然栽培に180度シフトし、自然の持つ偉大な「霊力」に唐沢さんは我が身をゆだねたのです。その結果、生物が本来秘める根源的なパワーと恩恵を、唐沢さん自身が自然に根ざすことで授かるという幸運を得たのです。それを独り占めせずに多くの人に手渡そうとする姿勢は、私たちが「命のリレー」として取り組むメッセージ活動にも通じます。

唐沢さんは自分勝手な甘えや同情を嫌います。農業も仕事として取り組む以上は「安からう悪からう」ではなく「世界一」を目指すという質の高いビジョンと決意を示しています。私たち依存症者は長く世間からつまはじきされてきたので心がひねくれてしまい、ともすると同情を買おうとして世間に媚を売りがちですが、視点を変えれば障害だって一つの個性です。創意工夫で依存症者が取り組む農業で「世界一」を目指してもいいはず。それには唐沢さんの指摘するように、労力と時間を掛けることが必要です。幸い潮騒には他よりも手数を掛けられるマンパワーがあります。今後も唐沢さんとの縁を大事にしながら、折に触れて助言をいただこうと考えています。

（センター長 栗原 豊）



▲ 根崎夫人の知人が作ってくださった、青パイアのオードブル 潮騒農業自然隊が栽培した青パイア

青パイア料理の試食会開く サラダや炒め物など豊富なメニューに舌鼓

ファイザープロジェクトで取り組む潮騒農業の意欲的なチャレンジ、未完熟の「青パイア栽培」を前に3月19日、潮騒農業自然隊メンバーらが「まずは自分たちが育てる作物の味を知ろう」と、支援者で農業指導者でもある鹿嶋市内の根崎彰さん宅で、青パイアのオードブル料理の試食会を開きました。

根崎さん夫人の知人が介護施設で青パイア料理を手がけていることから今回、特別にお願いして青パイアを食材にした、バラエティーに富むオードブル料理を作ってもらい、初めての試食会が実現しました。大皿には細切りサラダやミートボール、玉子や牛肉巻き、チャーハン、サンドイッチ、エビフライ、沖縄風おにぎりなどが盛り付けられました。根崎夫人の手料理も試食会に花を添えました。

農業隊メンバーらはふだん食べる機会のない珍しい青パイア料理の数々に、「定番のサラダはクセのない甘みがある」「炒めたり煮たりしてもおいしい」「他の野菜や肉との相性もいいし、揚げ物にもいい」「栄養価が高いのでアイデア次第で料理の可能性が大きく広がる」と太

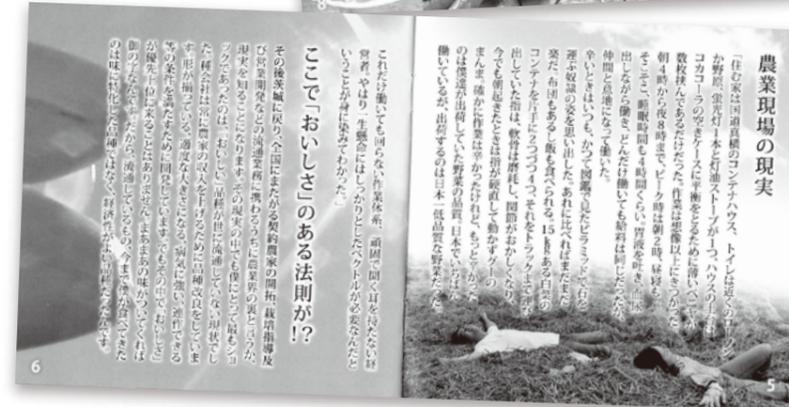
鼓判を押していました。

パイアは一般に南国フルーツのイメージが強いようですが、「未完熟」の青パイアは東南アジアや沖縄などで野菜として人気があります。脂肪や糖質、たんぱく質の分解酵素が豊富で、貧血予防や便秘解消など美容にも効果があります。これまで本州での露地栽培は困難でしたが、那珂市の柳沼正一さんが同地で「北限の路地栽培」を成功させたことを人づてに知り、潮騒農業にも取り入れました。今年は2年目のチャレンジです。

なお、この日は冬の寒さに逆戻りした天候でしたが、潮騒農業に興味を抱く薬物依存研究者の嶋田卓也氏（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部心理社会研究室長）が、休暇を取って私的に潮騒農場や潮騒水田などを視察してくれました。紹介者の横浜ダルク職員のプーキーさんとともに栗原センター長らが車で現地を案内。二人は現地視察に先立ち、今回の試食会にも参加して青パイア料理を堪能し、「癖のない味でおいしい」「いろんな料理に合う」と潮騒の青パイア栽培の取り組みに期待を寄せていました。（み）



ファイザープロジェクト 就労支援実践講座 ～鹿嶋パラダイスの唐沢代表が熱く語る 「潮騒なら 世界一の農業ができる」



◀ 食の楽園
鹿嶋パラダイス
パンフレット

潮騒ファイザープロジェクト就労支援実践講座の第3回が3月13日、鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれ、地元で無農薬・無肥料・無堆肥の自然栽培を実践する「鹿嶋パラダイス」代表の唐沢秀（からさわしゅう）さんに講師を務めていただきました。唐沢さんの常識に囚われない生き様と自然農業の取り組みは、依存症者にも勇気と希望を与えてくれます。唐沢さんは現代農業の革命者です。チャレンジ分野は異なりますが、スケールの大きな発想と実践は既存の精神科医療に挑むダルクや潮騒JTCの方向性と一致します。講演では頭でっかちな啓蒙的な説教ではなく、人懐っこい表情で農業の未来と可能性を熱く語ってくれました。



唐沢さんは1976年、静岡県浜松市生まれ。明治大学農学部を卒業して約9年間、古河市の農業生産法人でハクサイの生産や出荷、販売を手掛けましたが、自然農業にふれたことで180度方向転換を決意。たまたま農地を提供してくれる人の縁で鹿嶋市に2008年に移り独立。「世界一」を目指して鹿嶋にパラダイスを作ろうと、まったく新しい発想で営農集団を立ち上げました。

現在は潮騒農場のある鹿嶋市猿田地区を拠点に畑3.5ヘクタール、水田1.4ヘクタール、ハウス0.1ヘクタールを手がけています。すべて自然栽培だけに、当然

ながら除草作業や天日干し作業で多くの人手が必要になります。優れたオーガナイザーでもある唐沢さんは、持ち前の人を引き付ける魅力ある人間性で幅広いネットワークを形成し、年間600人が営農支援隊として首都圏から参加。鹿嶋パラダイスの農業を下支えています。

すべて自然栽培の米や多品種の野菜づくりに励む唐沢さんですが、生産にとどまらず加工や販売まで手がけ、6次産業化を実践しています。整備した農産物加工所では手作り味噌や豆腐、酒蔵と提携した日本酒作り、さらに自前で鹿嶋神宮参道にカフェレストラン居酒屋「楽田家（らくだや）」を開業。自前の自然野菜を素材にしたメニューで話題となっています。



「世界一のものを作っている人に会いに行くのが趣味」という唐沢さん。この日の講演で、自分が無類の美食家だったことが自然栽培農業に目覚めたきっかけだったことを明かしてくれました。

「僕はおいしいものが大好き人間。でも現実、肥料とか堆肥が素材本来の味を邪魔している。作物は遺伝子の中に“こういった味になれ”とプログラムされている。それが何ものにも邪魔されないで育ち、そのまま形になった時が本来の味。細胞が震えるほどの体験と感動を味わえる。肥料や堆肥をやると、それが肥料と堆肥の味に

なっちゃう」

「一般にニンニクは臭いというのが常識だけど、自然栽培だとニンニクは少しも臭わない。なんでか？臭いのは堆肥のせい。言ってみればウンコとオシッコのせいだ。僕たちはふだんウンコ味のニンニクを食べていると思った方がいい。言わばニンニクでウンコを食べていることになる。作物はその肥料や堆肥を入れた味になることを知ってほしい」

「動物も同じ。例えば人気のイベリコ豚。どんぐりを食べるのでナッツの濃厚な風味になる。動物も植物も食べたものに影響される。肥料も堆肥も使わないと、それが本来の味。それを体が欲している。体は自然に作られたものか人工的に作られたものかが分かる。細胞一つひとつがそれを感じ取る何かを持っている。葉や肥料とかに頼らない農業は素晴らしいんだ」



唐沢さんは「本当においしいもの」を食べるため、水牛の乳で作るモッツアレラチーズを食べようと産地のイタリアまで行き、実際にそれを食べて感動した体験も披露。結果的に唐沢さんは、「自分で最高のものをつくる」という考えに行き着きました。それは過去の経験や熟練を墨守する手垢に染まった常識論では生まれません。「経験つまないと何もできない」のではなく、「素人だから

こそできる」という新たな冒険者の発想です。

そうした素人の力を結集して、多くの人手を掛けることが今、一番のぜいたくであり、「日本一」「世界一」のブランドにつながります。実際、唐沢さんの農業は他よりも20倍手間を掛け、労力を結集しています。その結果、それまでコメづくり経験のない素人農業ながら、唐沢さんの作ったコシヒカリは就農2年目にして都内のデパートで「日本一」の高値が付いたそうです。

自然栽培は種まいて草を取るという単純な農業ですが、視点を変えれば他がやらないオンリーワン農業だけに、本当の価値を生み、自然環境にも、そして人にも優しいものです。これらを踏まえて唐沢さんは言います—

「世界一を作っているところは原材料から加工までぜんぶ自分でやっている。世界じゅうどこの人も世界一を作っているから目がピカピカ輝き、自信と誇りに満ちあふれ、こちらが圧倒される。モチベーションも違うし、生き生きしている。安かろう悪かろうを作っているのではない、品質のいいものを作ろうとしている」

「僕はこの世にパラダイスを作りたい。そのためにも鹿嶋で世界一を目指したい。素人が世界一を目指して何が悪い。素人だから目指せるんです。潮騒にはうらやましいほどの人の力、マンパワーがあります。どうか一緒に世界一を目指そう！」(み)

筑波山ハイキング登山



前号表紙で既報しましたが、観光地として人気の霊峰・筑波山へのハイキング登山を3月25日、多くの人参加者が参加して4年ぶりに実施しました。好天の下で汗だくなりながらも、つつじが丘から女体山頂までのコースを各自のペースで1~2時間かけて登りました。一部の人参加者がロープウェイで下りましたが、下りも頑張って徒歩で下山しました。「疲れたあ〜」と言いながらも、皆さん達成感をっていました。

筑波山には比較的登り易い4つの登山コースがありますが、今回はロープウェイ側の「おたつ石コース」に挑戦。つつじが丘から弁慶茶屋跡、白雲橋コースに合流して女体山頂を目指す最短コース（標高差約200m、所要時間約40分）です。岩場の少ない初心者向けですが、ふだん体を動かすことの少ない人参加者の皆さんは苦勞した様子でした。

それでも先頭グループはいち早く頂上に到着。順番にロープウェイ駅の休憩広場でお弁当を食べました。さすがに農業自然隊メンバーは体力があり、最後尾で落伍

者？を救護しながら登りました。好天には恵まれましたが、残念ながら春霞で山頂からの眺望は今ひとつでしたが、参加した仲間たちは爽快感を味わっていました。

一方で反省点もあります。午前10時から登る予定が車載ナビに頼りすぎたせいか道に迷った班などがあり、スタートが昼12時近くになってしまいました。事前の準備、とりわけコースの下見や確認作業が求められます。また、大所帯だけに潮騒の人参加者が一度に行動するには限界があることを実感させられました。（か）

【筑波山】茨城県つくば市北端にある標高877mの山。男体山と女体山の2峰からなる。古くから信仰の山として栄えてきた。「西の富士、東の筑波」と称され、日本百名山の中でも低山なので家族連れでも気軽に登れる。中腹には筑波山神社や温泉街があり、梅林や秋には紅葉が楽しめる。植生も豊かで1年を通して観光客やハイカーが集まる。「紫峰」「筑波嶺」とも呼ばれる。ケーブルカーやロープウェイで手軽に山頂に行ける。

●久しぶりの登山で自分自身がいとおしく

快晴の下、筑波山へのハイキング登山に参加しました。筑波山へは幼い頃行ったことを今でもよく憶えています。ガマの油とか弁慶の七戻りとかです。両親に手を引かれ、必死になって登った幼い頃…、懐かしさでいっぱいでした。仲間と一緒に食べたお弁当の味も格別でした。しばらく登山などしていなかった私ですが、久しぶりに山頂で爽快な気分を味わえたことで自分自身がいとおしくなり、思い出に残る一日となりました。（レイコ）

●達成感を味わいたくて登山に参加

筑波山に登りました。登山は初めての経験だったので、とても楽しみでした。小学校の頃に筑波山の男体山と女体山ができた神話を授業で教わった記憶があり、とても興味のある山でした。実際に登ってみると、予想以上にハードなのに驚きました。

少し空気が霞んでいたもので、遠くまでの景色を見ることができなかったのは残念でしたが、茨城の雄大な景色を望みながら歩くことができ、自分にとっても良い経験になりました。頂上に近づくにつれて、いくつかの神秘的な石や岩のスポットがあり、それらを楽しみながら登りました。改めて自然の力は凄いと感心しました。

今回は達成感を味わいたいという気持ちで登山に参加しました。私の人生においても何かに真剣に取り組んで達成感を味わいたいです。今回の登山で私は、何かに取り組むにしても一人ではできない、よき仲間がいるとめげずにやろうという気持ちになれることに気づくことができました。このような貴重な体験ができたことに感謝しています。これからも仲間と一緒に回復に向けて地道に歩みを続けていきます。（あやの）

●弁当係としてロープウェイで登山

私は潮騒 JTC に入寮してもうすぐ4年になります。先日、施設を挙げての行事で筑波山登山に行きました。私の郷里は富士山のふもとであり、若い頃は富士山には何回か行ったのですが、この歳（60歳）になり登山に行くとは思っていませんでした。

当日、私は弁当係となりロープウェイで女体山頂近くまで行き、登山チームが到着するのを待ちました。その間、ロープウェイ駅の展望台から関東平野の景色を一望しました。晴れて空気が澄んだ日は遠方に富士山やスカイツリーなどが見えますが、この日は春霞がかかってあまりよく見えませんでした。残念！

しかし、霞ヶ浦や土浦の町並み、牛久の大仏を見ることができました。眺めている間に、先頭グループが到着して昼食のお弁当を配り、彼らが楽しく食べている姿を

見て子供時代に戻ったような、無邪気な気持ちになりました。依存症の自分たちでも何か楽しいことがあると掛け値なしに気分が弾けるものです。こうした経験はアディクトにはとても大事なことに思えました。

そうして下山の時間となり私も仲間と一緒に自分の足で降りようと思いましたが、仲間に年寄り扱いされ、結局は上りと同じくロープウェイで降りました。ともあれ筑波山登山に参加できて、仲間たちと共に楽しい思い出ができました。次回こそは自分の足で筑波山を制覇したいと思います。（チヨー）

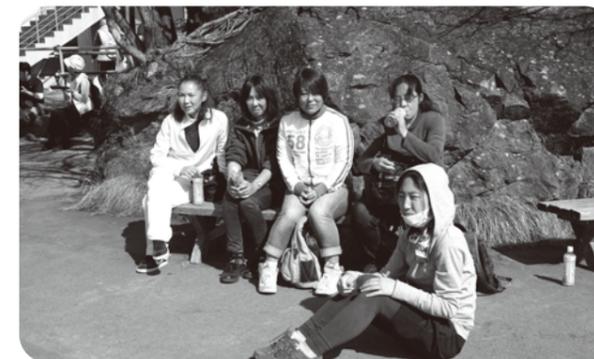
●山頂の心地よい風を全身に受けて

いつも遠くから眺めていただけの筑波山に登ってきました。といっても車とロープウェイだけで頂上への道でしたが、とりあえず山頂の心地よい風を全身に受けることができました。ロープウェイからは山の高さや谷の深さを感じることができましたし、木々のうね、神秘性を感じさせる巨岩、眼下に広がる景色など景観の美しさを観ることができました。当日の体調などの問題から自分の足で一歩一歩登ることはできませんでしたが、山頂神社の岩を登り、お参りしてきました。雄大なパノラマにやっぱり来てよかったなと思いました。（シマ）

●山頂で得られる心地よい感動は格別

私はダルク生活が長いので、これまでに筑波山には何回か登っています。今回の山登りは、とてもきつく感じられました。施設内でも高齢に近づきつつある体にはこたえました。でも毎回そうなのですが、自力で登り切った分、言葉では表せないほどの達成感があり、山頂で得られる心地よい感動は格別なものです。

とにかく何かをやり遂げたという充実した気持ちは、一見変哲のないように見える日々の回復生活を後押ししてくれます。山頂の岩場から遠望した眼下の景観は今回、物凄く美しく新鮮に感じられました。今までの登山経験の中でも特に気分爽快でした。昔は走り登ったのですが、今では体力の衰えは隠せません。今回の登山ではあの頃がとても懐かしくなりました。（キク）



今月のイベント参加報告

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

自分を試す意味でもいい体験に 2泊3日のシニアメンバー旅行の思い出

4月6日午前9時、さあ入寮者仲間9人によるバス旅行の始まりです。天気もよく、爽やかなスタートを切ることができました。途中ドライブインで昼食を取り、次の目的地である日本名湯のひとつ、袋田の滝（茨城県久慈郡大子町）へと向かいました。バスの車窓から見える周りの景色は里山と田んぼ、畑ばかり。バスを降りてから滝までは徒歩で意外と道のりがありましたが、長いトンネルを抜けると目の前に見事な滝が出現。七色の虹がいい具合にかかり、とてもきれいでした。観光客も多くカップルもいて賑やかでした。改めて人気の観光スポットなのだと思います。

夕飯までの間はゆったりと温泉に浸かり、とても気持ちの良いお湯でした。サウナも露天風呂もあって眺めもよく、満足した時間でした。料理はまずまずでしたが、驚いたのはコップと盃があるのにビールも酒もない奇妙？な光景でした。この瞬間、自分がアディクトであることを思い知らされました。この後は、みんなでマージャンをやって面白い一日が過ぎました。

次の日はホテルの前でグランドゴルフでした。これはとても楽しいスポーツでした。自分は初めての体験でしたが、どうやらこれから先ハマりそうです。帰りにはめんたいパーク（大洗町）に立ち寄り、これも良かったと思いました。今回のシニアメンバーによるミニ旅行は自分を試す意味でもいい体験になりました。このほかのことはミーティングで分かち合いたいと思います。（ムラ）



映画「神様のカルテ」でスタッフが 一緒に行動する姿に感動

今回、映画プログラムに参加しました。映画館に行くのは13歳の時以来、実に32年ぶりです。観た映画は「神様のカルテ」、病院の先生の物語です。舞台は365日ネオンが消えない病院で、先輩先生の命が長くないと知ったスタッフが先生に星を見せてあげてを計画しました。目隠しをして屋上に先生を連れて行き、病院の全ての電気をスタッフ全員の力でいっとき消して、若いときに見ていたような満点の星空を先生に見せてあげることが出来ました。実は先生は自分の命が残り少ないことを知っていて、受け持ちの患者の病状を全て書き残していました。それがこの映画のタイトルです。

自分はこの映画プログラムを通して、スタッフが一つの思いを実現するのに一緒に行動していく過程に感動しました。こんな思いを感じたのはとても良い経験でした。（しゅう）

施設に舞い戻り 映画プログラムに参加

2月27日に仲間4人と映画鑑賞プログラムに参加しました。観た映画は「プライベート・ライアン」です。内容は主人公がスパイ役に挑戦するという、ハラハラ・ドキドキする内容で真剣になって観ていました。とても良かったです。思えば、1年半ばに逃げるように施設から自主退寮してしまった私です。3週間くらい社会の中で生活していました。その中でも仕事には就いていましたが、自分がギャンブル依存症にかかっていることさえ忘れていて、スリッパの繰り返し生活に戻ってしまいました。

あの時には、お金が出るたびにパチンコやっていました。2月10日に新宿にある福祉事務所に相談に行くまで、ずっとその生活をしていました。病気に苦しめられ、これがラストチャンスと思い、20日に相談をして潮騒JTCに戻ってくることができました。今は作業班にいられてもらい、作業を通していろいろなことを学ばせてもらいながら自己改善をしています。今は感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。（エソ）

速報！～農業隊メンバーらが「べてるの家」を視察研修



潮騒JTCの栗原豊センター長夫妻と農業自然隊メンバーら6人が4月13～16日に掛け、北海道浦河町の「べてるの家」に視察研修に行ってきました。農業自然隊リーダーのヒトシさんは約1年8カ月ぶりの再訪です。前は祭イベントで十分な研修ができませんでしたが、今回はべてるグループの関連施設を回り、収穫を得たようです。

べてるの家は1984年に創設された精神障害をかかえた当事者の地域活動拠点。社会福祉法人を中心に小規模授産施設、多数の共同住宅、グループホームのほか、有限会社などを持つ地域完結型の福祉共同体です。ダルクや潮騒と同じく当事者活動を柱に100名以上が同地で暮らしています。「べてる」も活動の中心はミーティングであり、当事者研究が盛んです。今回の視察研修では前回叶わなかった農業や海産物の生産・販売など、主に「べてる」の職業訓練や就労支援活動、地域の支援ネットワークのあり方などを学びました。

現在、ファイザープロジェクトで就労支援事業に取り組む潮騒JTCですが、入寮者の就労では困難な現実に向き合っているだけに、従来の固定した就労概念を変えるユニークな試みを実践するべてるの活動は良い手本です。栗原センター長は今回、自身が提唱する依存症ケアの地域拠点構想「アディクションビレッジしおさい」についてヒントを得ることを主眼に置きました。成果など詳しい内容は次号でレポートします。（勝）

◇農業隊として再度べてるの家を訪問

今回、私自身2度目となるべてるの家への視察研修でした。精神障害者の人たちの日常生活やさまざまな活動、とりわけ私たちに参考となる農業とそのシステム、さらには施設運営の理念などを知るのが今回の主な狙いでした。前回の訪問で既に、べてるには潮騒ジョブの方向性に何か重要なヒントがあるとの確信を得ていましたので、期待を持った研修でした。

べてるの人たちの当事者研究やSST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング＝生活習慣訓練）など、ダルクというエンカウンターミーティングに近いグループミーティングなどを行っており、何より当事者スタッフたちが自分たちの病気と共存しながら生活し、働く姿に感動しました。12ステップはないけれど、べてるの理念がそれに近い意味合いを持っていると私には感じられました。

べてるでは「ノア」という職業訓練にも取り組んでいる、なんでも屋的な法人組織？があり、農業については潮騒農業のやり方と変わらない印象を抱き、かえって自分たちのスタイルに自信を深めました。リサイクル、フリーマーケット、加工商品など勉強になる取り組みを目の当たりにしました。見習うことが多く、大きな収穫のあった視察研修でした。（ヒトシ）



こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

潮騒エイサー隊が 水戸市の老人ホームを慰問 入寮者のイチさんが祖母との再会果たす

「いいものを見せてもらったよー」。日々、潮騒JTCで依存症のリハビリに励むイチさんの祖母が入居する水戸市の老人ホームで4月17日、潮騒JTCのエイサー隊（鹿嶋琉球太鼓）メンバー6人が同施設を慰問で訪れ、利用者の皆さんに県内では珍しいエイサーの演舞を楽しんでもらいました。久しぶりに再会を果たした2人は互いに手を取り合い、感激していました。人一倍おばあちゃん子だったイチさんは「仲間の協力で念願だった施設への慰問ができてよかったです。みんなに喜んでくれたので、また機会を設けてもらいたいです。もちろん僕もおばあちゃんに負けずに、社会復帰を目指して潮騒で一生懸命に回復に励みます」と話していました。（か）



◇やっとお母さんと会う事ができて

僕達が取り組む潮騒エイサー「鹿嶋琉球太鼓」の活動で、水戸市の老人ホームへ慰問に行きました。私が栗原センター長やメンバーに懇願して実現したもので、思い出に残る体験となりました。というもの、この老人ホームで僕が「育ての親」と思っている祖母に、運命的ともいえる再会を果たしたからです。

これに至る一連の経緯を記すと、僕たちは他のダルクの例にならって回復活動の一環として、昨年8月末からエイサーを始めました。昨年暮れには大震災の被災地慰問で仙台市内の老人ホームを慰問し、今年に入ると地元の老人ホームで太鼓を叩かせてもらいました。技量的には力不足でしたが、いずれも入所中のお年寄りの皆さんに大変に喜ばれました。

とりわけ初の老人ホーム慰問となった仙台市のケースでは入所者に喜ばれたことで自分自身が深い感動を覚え、かつて一緒に暮らした祖母の思い出がよみがえりました。懐かしさがこみ上げ、いても立ってもいられない衝動に駆られ、ずっと疎遠になっていた祖母の居場所を夢中でインターネットを駆使して調べました。

その結果、祖母が入居している水戸市内の介護付き有料老人ホームが分かったのです。祖母と書きました

が、僕にとってはとても良き“おばあちゃん”であり、育てのお母さんに等しい存在なのです。だから、あえて“お母さん”と書きます。依存症となって苦勞を掛けましたが、お母さんは僕が苦しい時代に味方になってくれた、本当の理解者だったのです。

お母さんへの思いが募る中、なんと幸運なことに意外に早く再開のチャンスがめぐり、今回の慰問活動が実現したのです。当日は冒頭に多くの“お母さん”方の前であいさつする機会を得たので、「今日だけはお母さんと呼びます」とマイクで祖母に呼び掛けました。お母さんは、とても感動している様子でした。

残念なことに僕は当日、椎間板ヘルニアで太鼓を叩くことができませんでした。でも、エイサーの衣装に身を包み、お母さんの手を握って、一緒に仲間たちのエイサーを盛り上げました。ツーショットの写真にも数多く収まりました。僕は感動しきってしまい、そのお母さんに掛ける言葉に詰まってしまったほどです。

またお母さんの顔を見に行きたいと思っています。今度は体調を万全にして精一杯エイサーを踊ります。お母さんからも「また来ておくれ」という手紙が、きつと来ると思います。また必ず行きます。本当に嬉しかったです。仲間みんな、ありがとう。（イチ）

受刑者からの手紙

「しおさい俳壇」とともに潮騒通信を特徴づけるのが、この「受刑者の手紙」です。外部とのコミュニケーションに渴望している皆さんの生の声はとても貴重です。手紙は全て目を通してありますが、ほんの一部しか掲載できないのが悩みです。受刑者の皆さん、めげずに頑張ってください。（ユタカ）

仕事に打ち込んでいる時は 覚醒剤は頭になかった

今回が私から発信する2度目の手紙です。（中略）ここでの生活を記せば、事件が覚醒剤ということで（薬物離脱教育を）書面によるカリキュラムで受講していますが、問いと答えという形になっています。答えを書いてくださる先生方は覚醒剤の経験の無い方なので、どんなものだろうという気がします。

受講を始めてすぐ潮騒JTCのことが頭に浮かびました。「本当に覚醒剤をやめたいなら私たちと一緒に（回復プログラムを実践する）カリキュラムを受けませんか」という手紙をもらったことが、私の頭の片隅に残っていたのです。だから私も本格的に潮騒でカリキュラムを受講すれば、これからの人生を平穩無事に送ってけるのでは？と思ったのです。潮騒が偶然、私の故郷の茨城県内にあるというのも何かの縁かもしれません。私の気持ちを固めさせた一因でもあります。

私は覚醒剤事犯で受刑するのは今回が2度目です。前回は使用の罪で逮捕され、1年3月の刑に服しました。自分で言うのもおかしいですが、そんなに深くは覚醒剤に染まっていないという自覚を持っています。もちろん、1回でも自分の体に入れてしまえば同じことだということは分かっているつもりですが…。今回も仕事に打ち込んでいる時には覚醒剤のことは全く頭にありませんでした。まあ仕事が仕事だったので、余計にそうだったのです。因みに私がしていたのは型枠大工の仕事で、しかも職長をしていたので忙しく、とても遊んでいる暇などなかったこともあります。とはいえ実際には何回か誘惑がありましたが、それでも我慢できたのです。

今だから書けますが、本当は自分自身で使用するつもりで友達のところから覚醒剤をもらってきたものだったのです。しかし、自分の体に打つ前に職質を受け、所持の罪ということで2年の実刑と相成った次第です。そんな私ですから、やはり本格的にカリキュラムを受けなければやめることができないだろうと、改めて感じています。

（茨城県 I・K）

恐怖感に襲われ「薬物にかかわりたくない」

私は昨年暮れに約10年ぶりに覚醒剤事件で逮捕されましたが、覚醒剤を使った直後に今まで味わったことのない恐怖感に襲われました。使用する前から「どうしようか…」と悩み続けたのですが、魔が差したのか使用してしまいました。でも、快感を得るところかどうしようもない恐怖感に囚われ、「次にやったら死ぬ」と思い、残りは全て捨ててしまいました。ですから（お気遣いはありがたいのですが…）私は「薬物をやめたい」のではなく、「薬物にかかわりたくない」のです。

それに私には守るべき家庭があります。私の帰りを待っている上司、息子、内妻がおります。今は薬物を憎んでいますし、私は一切関わりたくありません。それに私は、過去に暴力団を10年ほどしていましたので、薬物依存者を何千人というほど見てきました。そういう体験や経験を話すことで、この世に一人でも依存者が少なくなるのでしたら、いくらでも協力します。せつかくお手紙をいただいたので出所後、時間があれば足を運ばせていただきます。

（東京都 G・K）

満期面接で迷わず「潮騒に帰る」と答えた

潮騒通信2月号によると、トラクターを購入したとのこと。潮騒の農作業にも弾みがつきそうですね。大震災から丸3年が経ちましたが、施設の補修などは終わりましたか？ 私は今年で48歳になります。年男です。はやる気持ちを抑えながらも、潮騒で頑張れると思うと嬉しくもあり、また不安でもあります。栗原さんやスタッフの皆さんの教えやご助言を得て回復に努め、断薬、断酒をしていく決意です。つい最近、満期の面接があり「帰るところはあるか？」との問われ、迷わずに「潮騒に帰ります」と答えました。当所まで迎えにも来てもらえるかと伝えたところ、先方には時間を教えておくように、との指摘を受けました。

それにしても早いもので栗原さんと手紙のやり取りを始めて約2年7カ月が過ぎました。私は本当に、今回で受刑生活を最後にしたいのです。栗原さんと知り会えたのも何かの縁だと思いますし、潮騒で頑張っている一日一日薬物やアルコールのない生活をしていきたいと思っています。このところ出所後のことばかり考えています。正直なところ不安でいっぱいです。本当に薬物やアルコールをやめることができるかどうかと、毎日悩みながらの生活ですが、何とせよ潮騒で仲間の皆さんと一緒に薬物やアルコールのない生活をする決意です。どうか宜しくお願いします。

（愛知県 S・S）

しおさい俳壇

4月のお題 さくら

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.6

センター長 栗原豊

鹿島ダルクでの生活に慣れた私は、暇を見つけては好きな俳句づくりにいそしんだ。社会復帰を目指して施設の提案でアルバイトに出るようになって、ノートと筆記用具はいつも携帯した。施設生活の断面でふと思ったことや、仕事の休憩時間にふと頭に浮かんだことはさかさメモするように心がけた。季語となるキーワードや歳時記、四季折々の風物詩などには特に注意を払うようになった。

また、施設の用事やダルクフォーラムなどでよそに出かけた時には、自分が運転役ではない限り車窓から周囲の景色をながめては、すぐに自分の気持ちをノートに綴った。そのうちに次第に心象風景がストレートに俳句作品に結実するまでに成長した。“好きこそ物の上手なれ”のたとえではないが、こうした日常が俳句づくりのトレーニングとなり、さらに入会した神栖俳句会で先輩たちからの助言を受けて実践的にも鍛えられた。

この時期、私にとって俳句作りは独自の回復プログラムともいべき副次的な効果を発揮し、柱となる12ステップ・プログラムを補強してくれた。規律を遵守したり、相手との約束をきちんと守ることができるようになったのはもちろん、それまでの自己中心的な生き方が嘘のように、人間的な感情が豊かになって人への思いやりや心配りができるようになった。施設での人間関係の円滑化にはとてもプラスとなった。

思うに、私たちアディクト（依存症者）は、ふうつの人と同じように「当たり前」のことが「当たり前」にできるようになるような社会訓練をしているところがある。その意味で私の俳句作りは、それまでの自分の否定的な過去と素直に向き合える「武器」となり、スピリチュアルな成長を促してくれた。私の場合は俳句との出会いが幸運にもその下支えとなったが、もちろん人によっていろんなスタイルや方法、手段があるはずだ。（次号につづく）

今月の秀逸句

トム
桜舞ふ
夕べ狂ほし
恋心
秀逸句

咲き満ちた桜も夕風に散り舞うと何か切ないが、また自分も狂うほどに人が切々と恋しい。ことに山桜などは哀愁を思い、私も亡妻を思う一句です。

ミヤ
山桜
故里の母
思ひをり
秀逸句

桜には染井吉野、彼岸桜、山桜などあり夫々に趣きがありますが、淡紅色の山桜には淋しさや里を思う恋しさがありません。谷間に咲く山桜を眺めていると、母や里を懐かしく思う。しみじみとした句です。

あやめ
桜舞ふ
鹿島の空も
海の藍
秀逸句

桜は古来から咲き振りよりも散り際を武士が愛したが、戦国の世の男の生き様でもあり、現世の人の願いかも知れない。桜の舞い散る空を眺めると鹿島灘の様に蒼い、桜の色にコントラストも美しい句です。

イチ
山桜
離ればなれに
暮れてをり
秀逸句

山桜は自然に育つたものが多く山間の旅をすると谷や裾野に見かけて旅情を添える。その山桜の咲く山も谷間や日陰から暮れてゆく、袋田や故郷の山を彷彿する句で懐かしい。

アベ
城山の
闇を分けゆく
花見客
秀逸句

城跡は今公園として憩いの場が多い、近くでは鹿島小見川などがあり、夜桜見物が催される。花はライトアップされるが道は暗い所もある、闇を分け行くに実感の句です。

カート
夜桜や
肌の冷えに
香るかも
秀逸句

夜桜見物は燈に浮立つところと暗がりの花の趣に女性も思う。夜も更けて冷えを思うころには肌にも香りがするほど薄紅に思える。艶冶を込めた一句です。

受刑者の句

章三郎

春風は
まつすぐ我は
道曲る

春風はやわらかく暖かい思いがある、その春風に誘われて散歩をする、風は顔に快く吹き抜けて行くが自分は道を曲る。それは今の我が身への思いでもある、春風の様に素直に生きておれば。春風に託した切実な一句です。

章三郎

獄中の
貰ひおさめの
春の風邪

風邪は冬に多いが、春の余寒の頃の寒暖にも引きやすくだらだらと長引くこともある。獄中で最後に風邪を貰い一人哀れの思いも深い句です。

佳作

- 軽やかに気分華やぐ桜かな レイコ
- 桜咲き黒き衣紋の母と行く シマ
- 雑木山そそと咲き継ぐ山桜 オノ
- 妙小寺池より流る桜かな かつ
- 御手洗の池に流るる花筏 ヒロ
- 桜餅匂ひも色も里の味 コバ
- 桜餅笑顔に食べる我が娘 オガびよん
- 桜散るひとひらひとひら惜しむかな カツミ
- 桜咲く散る花びらをすぐ思ふ キコ
- 古里の家族で見たる桜富士 長吉
- 桜咲きいま木漏れ日の鹿島杜 イルカ
- 別離あり出逢いもありて桜かな 稔

栗原センター長の句

襟裳碇色づき初むる昼の月 豊

靖国の
神は父なり
花吹雪

ユタカ

靖国神社は明治以降国事に殉じた英霊、約二百五十万柱を祀る。句の作者もまた私も父を戦争で亡くしたので特別な思いの靖国でもある、境内には染井吉野、山桜、枝垂桜など約四百本がある、花吹雪はその英霊への散華であり、花と散った父への思いと哀れの句でもあります。

桜咲く
野辺に童の
声充ちて

ポチ

日本の四季に咲く花の中でも桜は格別で、農事、入学、入社、など桜の咲く四月を目安にしている。また子供達が冬の寒さから開放されて元気な声を聞くのも四月、校庭にも野にも遊ぶ声を彷彿する明るい句です。

どっこい私も生きてます～我が回復記～ 「アディクトのトムです」 No.3

社会人になっても足が地に着かないアディクト人生

アルコール依存症のトムです。引き続き自分の過去を振り返ります。バブルに沸いた学生時代でしたが、通常4年のところを5年かかって卒業しました。この頃からカードローンの渦に巻き込まれていきます。内定していた製菓会社も留年で駄目になり、収入のいいウェイトの紹介業の仕事に就きました。何か責任のない学生時代の延長でした。きちんと生活設計を立てて地道に歩んでいる友人たちを横目に、どこか他人事でした。人様の借金を肩代わりして自分が困窮し、その尻拭いを親父にさせたりと、早くも依存症に特有な無責任な人生そのものでした。それって早く気づけよって話ですが、もちろん当時はそうした自覚などありませんでした。

酒は仕事の打ち上げでよく飲んでいました。居酒屋に飲みに行く結構、弾けてました。そういえばグラスをよく割ったつ。時代の流れでイタメシにも行きました。ラ・ボエムとかは行きつけでした。何かその雰囲気浸るのが好きで高い料理とワインを頼んでいるのに、その味が分かっていたかというと恥ずかしいけれど、飲む方が優先でしたね。なんだかひねくれたプライドが邪魔して、本当の人生を楽しむといったことは今もって出来てないですね。

それでも仕事は徐々に責任をもたされました。三越と関連会社の二幸への事業移管の下支えが出来たことは自分の誇りです。とはいっても、自分の名前は残せてないですけど。当時は時代の先端に居ることが自分の喜びでした、でも、常に新しいことを求めているながらも、いつか自分が追い越されることに何かしら怯えていました。そういった意味で、あのころの時代を象徴していたアイドルスターの松田聖子は、自分にとっていいメッセンジャーだったと感じています。パッシングを受けていても打たれ強く、愛人などのスキャンダルにもくじけず、アメリカが好きなどころも共感したとこかな。とにかく自分の夢に向かって歩いていくところに惹かれていました。

余談はこれくらいで、ウェイトの現場仕事は90年代半ばで一区切りを迎えます。ここから今の仕事にも繋がる、事務の仕事へとシフトチェンジしていきますが、その話は次回に。

4月のバースデー



ゆき 頑張ります



まりお 懲役何十年余生は娑婆で(笑)



だい 想い願い届いています



つぎお 一日断酒

● インフォメーション

潮騒 JTC 9周年フォーラムは
12月7日(日)
鹿嶋勤労文化会館で
開催します!

潮騒ジョブトレーニングセンター9周年フォーラムの日程が正式に決まりました。開催日は12月7日(日)、会場は昨年と同じ鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市宮中)です。これまでは終日を通したプログラムでしたが、長丁場で冗長に流れる傾向に反省を加え、午後1~5時の半日プログラムに集約します。少々早いです。今から行事日程に繰り入れてください。内容は、エイサー(琉球太鼓)競演と潮騒農業のまとめの2本立てです。昨年のフォーラムと同じように潮騒と交流のある首都圏の主要ダルクの応援を得て、エイサー競演と鹿島灘太鼓の演舞でステージを盛り上げます。続いて潮騒ファイザープロジェクトの総まとめとして、就労支援事業の中心となる潮騒農業にスポットを当てます。統一テーマや演者など具体的な内容については、今後、施設内で毎月開くプロジェクト会議で煮詰めます。

4月の行事予定

- 13~16日 北海道浦河町「べてるの家」視察研修
- 17日 エイサー(琉球太鼓)慰問(水戸市)
- 19日 秋元病院メッセージ
- 21日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 22・23日 静峰ふるさと公園サクラ花見会(那珂市)
- 24日 R・D プログラム(毎週)
- 27日 潮騒家族会
- 28日 4月入寮者誕生会

5月の行事予定

- 1日 映画会
- 3・4・5日 横浜ダルク合同プログラム
- 6・15日 R.D プログラム
- 8日 俳句会
- 10・18日 秋元病院メッセージ
- 19日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 20・21日 潮騒運動会(中央青年の家)
- 22日 R.D プログラム
- 25日 家族会

編集後記

読者から手厳しい意見が届いた。内容は、「潮騒通信を毎月楽しみにしているけど、やたらとイベント記事が多いね。フォーラム、太鼓、スポーツ、旅行、登山…、長期不況で庶民は低賃金と生活苦にあえいでいるのに、いいご身分だねえ。はたからは遊びにしか見えないよ。活動の原資は入寮者の拠出金だっていうけど、本をただせばみんなの生活保護費なんだろう。それって血税で遊んでいるようなもんじゃないの。社会復帰を支援する依存症の回復施設なら、もっと職業訓練を充実させないと世間は認めてくれないよ」。恐らく世間一般の声を代弁した意見だと思う。素直に受け止めたい。でも、声にならない叫びもある。どうか依存症という病気の難しさをもっと理解してください。常識では推し量れない病氣、それが依存症なんです。一筋縄ではいかない困難な障害なんです。一見、急げや遊びに見えても当事者たちは必死なんです。そうした活動によって潮騒で薬物やアルコール、ギャンブルに頼らないでいられること自体が凄いいことなんです。奇跡なんです。どうか長い目で潮騒 JTC の活動を見守ってください。同情や哀れみではなく、厳しい愛情の視線で。(市)

献金を頂いた方 (4月21日現在)

- ・小橋 ひとみ 様
- ・渡辺 洋子 様
- ・前園 真毅 様
- ・しまナーシングホーム河和田 様
- ・井上 芳子・恵美 様
- ・マヌエル・エルナニ德斯 様
- ・片平 春枝 様
- ・上田 隆靖 様
- ・岡本 紳次郎 様
- ・石井 照明 様

献品を頂いた方 (4月21日現在)

- ・堀内 誠 様
- ・高木 淳雄 様

その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 どっこい生きてます! 2014年4月号

Contents

- P 2 私たちの生きる姿勢を地元の唐沢秀さんから学ぶ
- P 3 青パイヤ料理の試食会開く
- P 4 就労支援実践講座～鹿嶋パラダイスの唐沢代表が熱く語る「潮騒なら世界一の農業ができる」
- P 6 筑波山ハイキング登山
- P 8 今月のイベント参加報告
2泊3日のシニアメンバー旅行の思い出
映画「神様のカルテ」でスタッフが一緒に行動する姿に感動施設に舞い戻り、映画プログラムに参加
- P 9 速報!～農業隊メンバーらが「べてるの家」を視察研修
- P 10 潮騒エイサー隊が水戸市の老人ホームを慰問
- P 11 受刑者からの手紙
- P 12 しおさい俳壇 4月「さくら」
- P 14 どっこい私も生きてます! ～我が回復記～

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉦田
〒311-2113 茨城県鉦田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



